

# テーマ別基礎ゼミ 神経科学グループ08, 09

藤田 一寿

# 心理学実験演習

データのとり方

## ■ 悩んではいけない

- 錯視が見えたか見えないかを悩んで結論を出さない.
  - 錯視が見えるか見えないかの境界では, ある時見えるがあるとき見えないといった事が起きる.
  - 見える確率を知りたい.
- この数値なら見えるはずなど考えずに見える見えないを即決する.
- 錯視が見えるかどうかを他の人と相談しない.

# プレゼンの作成

# ■ プレゼンの構成

- 研究のプレゼンは次のように構成しよう.
- イントロ
  - 背景を書こう.
    - 何が問題なのか書こう.
    - 先行事例を書くと説得力がでる.
  - 目的を書こう.
    - なにを調べるか, なぜ調べるのかを書こう. 調べて何が面白いのかも書くとよい.
- 手法
  - 何をどのように測るか書こう.
  - 図用いて説明しよう.
- 結果
  - 結果を述べよう.
  - グラフを使おう.
- まとめ・議論
  - 実験をまとめよう.
  - 実験結果に関して議論しよう.

# プレゼン資料の例

注意：あくまでもサンプルなので数値などスライドの内容に全く根拠はありません。

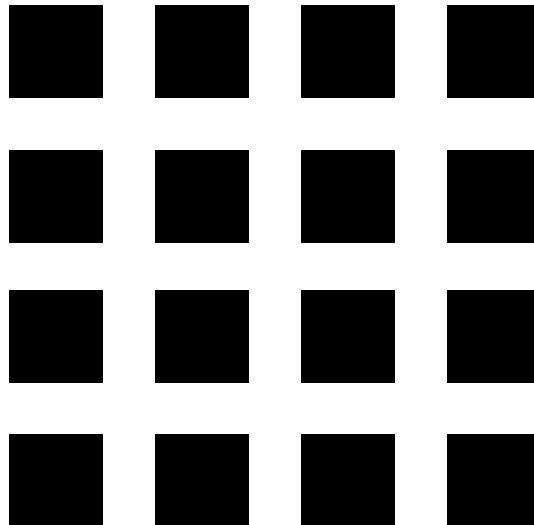
# ヘルマン格子錯視が見える 条件

氏名

所属



- 人は視覚刺激から有用な情報を素早く抽出するために、様々な処理を行っている。
- その処理のために、実際の画像と見え方が異なる錯視が生じることがある。
- 本演習では、ヘルマン格子錯視の正方形の配置の間隔を変えることで、錯視の見え方がどのように変わるか調べる。



# ■ ヘルマン格子錯視とは

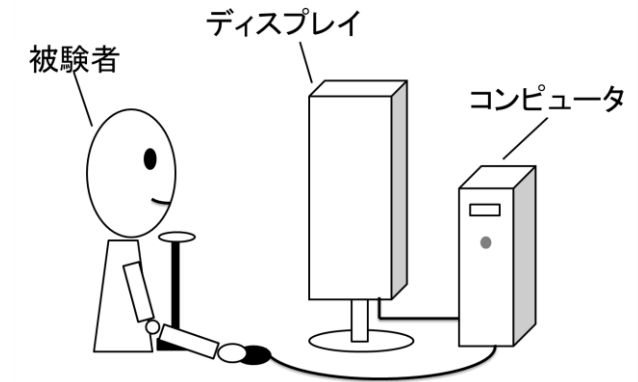
---

- ヘルマン格子錯視の説明

注意：あくまでもサンプルなので数値などスライドの内容に全く根拠はありません。

- 実験環境

- 被検者の顔からディスプレイまでの距離を50cmに固定
- 視覚刺激はヘルマン格子錯視画像
- 21型ディスプレイを使用.

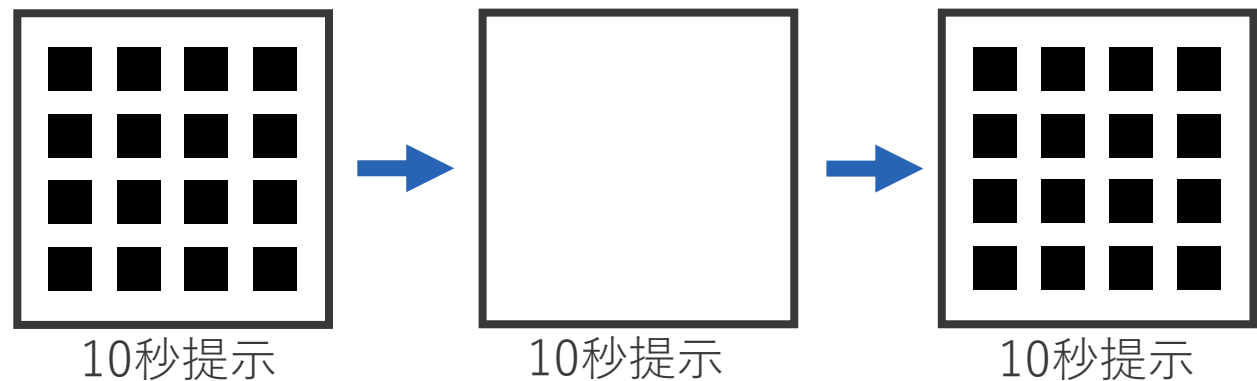


- 実験

- 1枚の錯視画像を10秒間提示し，被験者がその間に錯視が見えたかどうか答える.
- 提示間隔は10秒とした.
- 被験者は，5分間に15枚の錯視画像を見，それぞれについて答える.

- 被験者

- 男○名，女○名

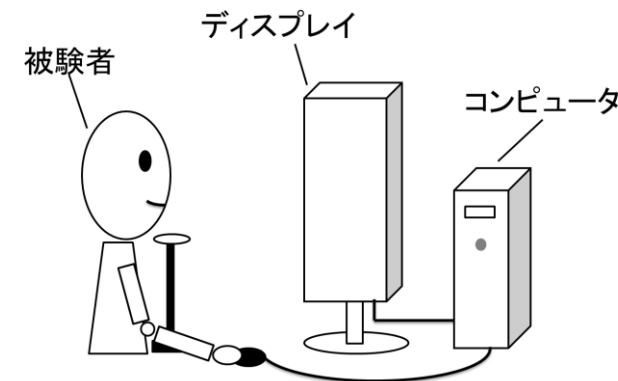


# ■ 手法

## • 実験環境

- 被検者の顔からディスプレイまでの距離を50cmに固定
- 視覚刺激はヘルマン格子錯視画像
- 21型ディスプレイを使用.

実験環境によって結果が変わるので記述が必要



## • 実験

- 1枚の錯視画像を10秒間提示し、被験者が答える.
- 提示間隔は10秒とした.
- 被験者は、5分間に15枚の錯視画像を見、それぞれについて答える.

見せ方によって結果が変わるので記述が必要

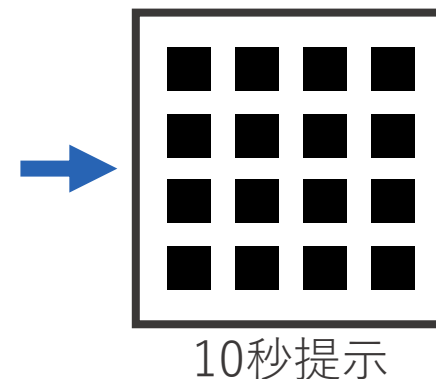
## • 被験者

- 男○名, 女○名

心理学実験では、年齢、性別、育った国などで結果が変わる可能性があるため、結果に影響があるかもしれない被験者の情報は重用である.

10秒提示

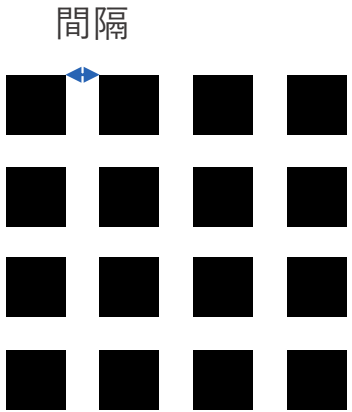
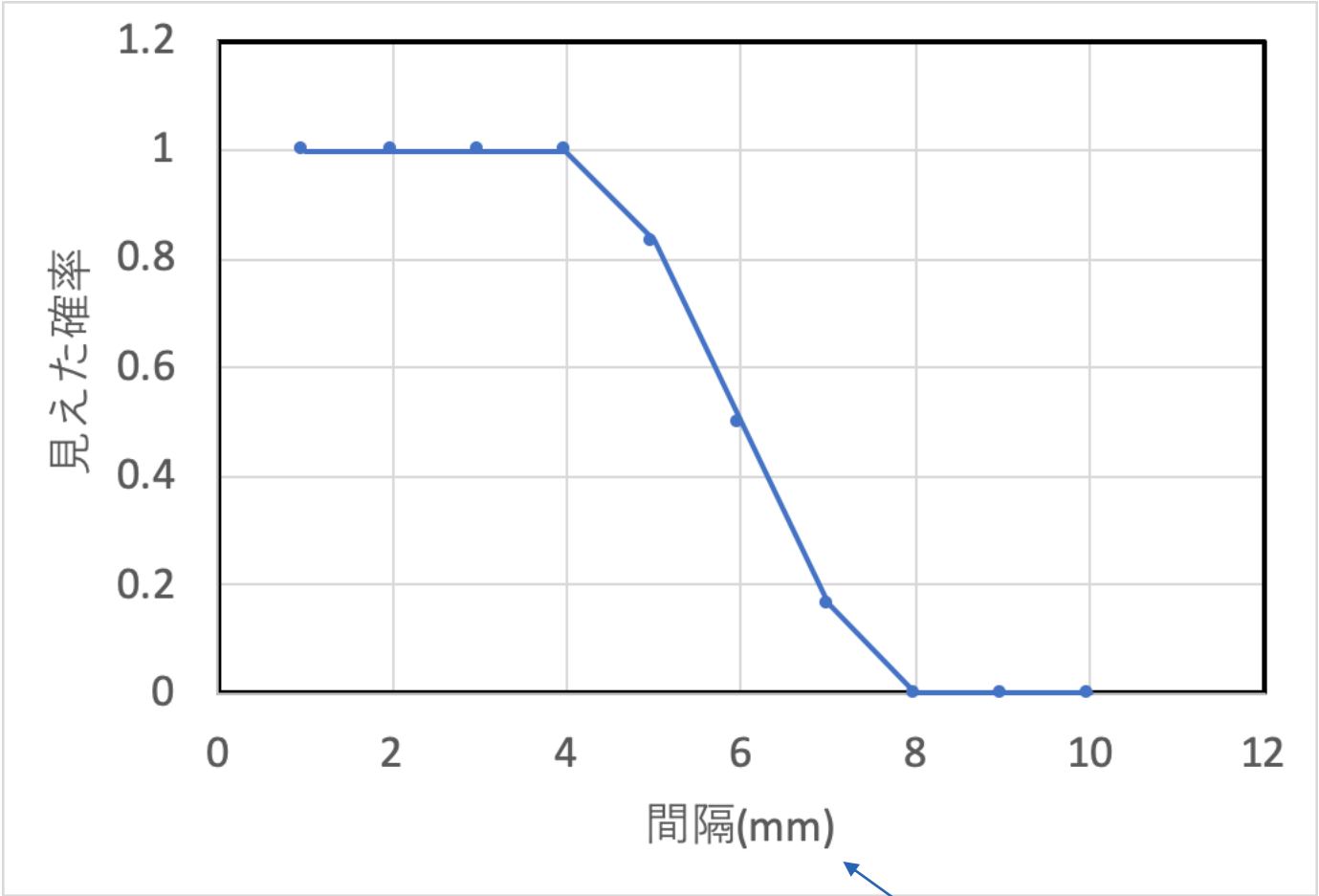
10秒提示



# 結果

注意：あくまでもサンプルなので数値などスライドの内容に全く根拠はありません。

格子の間隔と錯視が見えた確率の関係



単位を書こう

- 実験の結果，間隔を8mm以上にすると錯視が見えないことが分かった．  
（まとめ）
- 8mmは視角○度に相当する．○度以上になると側抑制などの効果がなくなるのかもしれない．（考察）
- 数値のばらつきが多い原因の調査をする必要がある．（今後の課題）

自分が分かる範囲で書こう．

例おわり

## ■ 発表会

---

- 1 グループ5分から10分